

司会：よろしいですか。それでは7時40分になりましたので、残りのお時間8時10分まで、本日の議題全般についての質疑応答とさせていただきたいと思います。それでは改めまして、ご質問のある方は挙手にてお願いいたします。

質問者10：SNSの件について質問したいんですけど。うちのチームではないんですけども、よそのチームでSNSから移籍の情報が漏れて破断したという話がありました。正直言うと、今回うちのチームでも1件ありまして、ありました。それ以外にも、ちょっと選手、これは選手周りの問題だと思うんですが、それ以外にも、議員さんが大宮アルディージャの選手の獲得の件について、公式発表の前に高らかに宣言してしまった件、SNSで宣言してしまった件を見てしまいまして、この辺はどうなのかなっていう。守秘義務ではないですけども、そういうプロテクトの部分がちょっと甘いんじゃないかなと私の中で感じましたので、その辺お考えをお聞かせいただきたいと思います。

鈴木(徳)：はい、ありがとうございます。SNSの問題は、大宮アルディージャにとっただけじゃなくて、サッカー界含めて、サッカー界だけじゃないと思うんですが、問題になっていることだと思います。それでJリーグの方でもですね、毎年2月1日から2・3日と2泊3日で新人の研修をやっております。その研修の中で、何年か前からか、そういったことをテーマにして、外部の講師の方を招いて、SNSを取り扱う上での注意や何かというのを講義をしている状況です。私、昨年もその研修に少し関わっておりまして、その時の研修は非常にこう面白いというか、ためになるものでしたから、ぜひ大宮アルディージャでもこの講師の方に来ていただいて、(研修を)やる機会を作りたいなと思っています。ご指摘の通り、その辺の管理というのはルーズになってしまうところだと思いますし、その認識の下、しっかりと指導しなければいけないなとは感じております。

司会：よろしいでしょうか。ありがとうございます。他にございますでしょうか。

質問者11：2014年のトップチームのことなんですけれども、ナビスコカップを取ってほしいです。いつもグループリーグ敗退してますので、トップチームとしてナビスコカップはターンオーバーの場なのか、それともちゃんとタイトルを取りに行くのか、タイトルを取りに行くと思うんですけども、グループリーグの1位または2位を目指していただきたいというお願いです。強化の方の方針があればお聞かせください。

鈴木(徳)：正直言って、そこまで今考えていないです。毎試合、全ての試合が大事な試合だという認識でやる覚悟で、大熊監督とは話しています。

質問者11：ありがとうございます。リーグ戦が始まりますと、もうすぐに水曜日はナビスコカップみたいな感じになるんですが、どこかのチームは必ず1位か2位になりますので、目指していただきたいなというお願いです。失礼しました。

鈴木(徳)：ありがとうございます。

司会：他にございますでしょうか。

質問者 12：今年の大熊監督の方針が、ハードワークとアグレッシブということなんですけれども、私もサポーターになって経験上、そんな感じで見えるというのは張外龍(元)監督とベルデニック(元)監督ですか、大体そういうときって、やっぱりハードワークで勝つうちは、大宮は面白くなった、大宮はとても強くなったっていう評価を受ける一方で、やっぱり後に出てくるのが、例えば人間関係がギスギスしてきたとか、息切れ起こしたっていうことで、急降下っていうのがつきまとうんですけれども、そういったデメリットというかりスクの面についてどうお考えでしょうか。

鈴木(徳)：ちょっと私自身がリスクというかデメリットと、あんまり今感じてないんですが、要は全てのことにに対して全力でやってほしいと。13日に練習スタートしたとき、選手に少しお話をさせていただいた中の1つが、とにかく全力でやってほしいと。その全力でっていうのは、90分間の試合もちろん全力だし、それ以外の時間も当然あるわけで、栄養も休養もメディカルケアもそうですし、リフレッシュする時間もものすごく重要だと思いますし、そういうことを含めてすべて全力でやってほしいということ、大熊監督のよく使うアグレッシブだとか、私が時々使うハードワークという言葉に生かしていただいたということで、やみくもにスピードアップをさせればいいやということとは、ちょっと違った認識を私どもはもっております。

質問者 12：ありがとうございます。

司会：他にございますでしょうか。

質問者 13：今年のスローガンも大宮共闘ということで、昨年でもありますね、大宮共闘という意味で、みんなで一体にっていうことだったんですが、後半ですね、負けが込むような中で、ちょっとこう選手もフロントもサポーターも含めて、一体になりきれてないんじゃないかなっていうふうを感じる部分があって。にも関わらず、今年も大宮共闘っていうことで、ただ単純にスローガンを掲げるだけではですね、一体にはなれないのかなっていうのが、1つ感じています。そういった中で、青木選手が浦和に移籍すると。私、サポーターからすると、いろんな考え方があるとは思いますが、すごく裏切りだなというふうに思って、今回の移籍を感じています。さいたまダービーでは、もうすごい絶対勝ちたいと思ってみんな応援していて、選手も同じようにそういう気持ちの中で戦ってくれているというふうに思っていたんですが、今回移籍するということがすごいびっくりでしたし。それと確か青木選手は、アンダーアーマーの広告のですね、そういった立場でもいて、そういったスポンサーの方に対してもですね、裏切り行為なんじゃないかなって気持ちで見えています。今後のクラブ運営の中では、そういったチーム愛だということがすごく大切だということをおっしゃっているんですが、今回そういったことも踏まえてですね、そういった部分どう感じているのか、移籍に至る経緯なども踏まえてですね、ちょっと聞かせていただきたいなとい

うふうに思っております。

久保田：移籍に関しては、後ほど強化の方からチーム統括本部長のお話をいただきますけれども、大宮共闘に関しては、クラブとしてやはり全員で闘っていかなければ、先ほどから出ているようなクラブ力も含めて上げていかなければ勝てないということを改めて感じた年だったと思うし、最後の方できてなかったというのは、負けが込んできてそういう状態になったというのは事実だと思います。ですからそうならないように、選手も含めましてクラブ力ということ、全力で行くということ、こういったことをもっともっとシェアしていこう、それは試合の時だけじゃなくて、すべての場面でそういうところを作っていこうということです。ですから選手とサポーターの皆さまとの接点の部分であるとか、それ以外のスタッフとサポーターの皆さまの接点の部分、これは地元の方も含めてですけど、そういう場面をもっともっと増やしていこうということで、クラブ力を上げることで、それが共闘になって、我々強くなれるんじゃないかと。結局みんな大宮を愛しているということで、気持ちは一緒のはずなので、それを1つにまとめるようなこと、クラブが身をもってしっかり示していきたいなと思っていますので。できてないだろっていうツッコミをいただくかもしれませんが、しっかりやっていきたいと心しておりますので、ぜひ大宮共闘でお願いできればと思います。大熊監督にもしっかり話をして、それから鈴木徳彦さんにも話をして、十二分にご理解いただいて、それでいこうということでやっております。選手も十分理解してくれていると思います。ぜひよろしく願いいたします。後段出てきた青木選手の関係に関しては、強化の方からお願いします。

松本：青木拓矢についてですが、浦和レッズに移籍したというのを、正直一番ショックを受けているのは僕でした。要はスカウト1年目で、僕も同じ群馬県出身ということで、1年目から彼に目をつけて誘って来ていただいたということがあったので、今回強化部長に就任した時に、一緒にやりたいと口説きはしたんですが、これは要はプロ選手なので、それは彼が決めることなので、そこは彼を尊重してあげて、僕的にも見守ってあげたいなという気持ちでいます。ファン・サポーターの気持ちを考えれば、そういう気持ちはあるかもしれないんですが、彼が今後のサッカー人生を考えたときに、正直複数のクラブからオファーがありました、というところで、彼も自分なりに考えて、代理人もつけずに考えたことなので、正直僕も、涙涙のお別れをしたんですが、というところでした承していただけたらと思います。よろしいでしょうか。

質問者13：そしたら1つすみません。そういう中で、去年の頭に青木選手は足型を、高島屋前に設置したんですけど、あれは、もうやっぱりよくないんじゃないかなと。個人的にやっぱり気持ちとして、あそこのままの状態にいるっていうことに対して、クラブはどう考えているのかを教えてください。

久保田：その時点で移籍を前提にしていた訳ではないし、彼は大宮に残るっていう選択をしてくれた訳ですし、チームの一員だった訳で、クラブに対して貢献、チームに対する貢献があった訳で、それ自体はやはり否定するものではないと我々は考えていますし、

今後また移籍する選手が出てくるかもしれませんが、もちろん残ってもらいたいのですが、僕が言うことじゃないかもしれませんが、プロの短い選手生命という中で判断していくことでありますので、我々としては魅力あるクラブ、大宮を一番に思ってくれるような選手が育つような環境を、もっともっと作っていく、それが先ほどから出てきているクラブカにも繋がっていくんじゃないかと思っています。何とぞご理解いただければと思います。

質問者 13：私の個人的な感覚としては、そこはちょっとズレてるような気がするのですが、そういったところは気持ちですよね。サポーターの気持ちだとかというのを、こういう場を通していろんな人から聞いてもらって、形にしていただければいいかなというふうに思いますので、よろしくお願いします。

久保田：貴重なご意見ありがとうございます。

司会：それでは他にございますでしょうか。

質問者 14：2点ありまして、ちょっと質問が大分前の質問に戻るんですけども、今カルリーニョス選手が交渉を続けてる最中、その進捗状況とか、当然お話しできないと思うんですけども、カルリーニョス選手が仮に出るとすると、外国人の枠が空くという状況だと思うんですけども、サポーターとしては今後追加で、カルリーニョス選手が残るか出るかは別にして、動きが出た場合、新加入はあるというふうに考えておいた方がいいのか、もう新体制も発表されておりますので、このメンバーで今後いくというふうに考えていいのかというのが1点と。もう1つはスタジアムの所なんですけれども、スタジアムの喫煙所なんですけど、私、昨シーズンですね、先輩のご家族を誘ってですね、ぜひ応援しに来てほしいという形で行った時にですね、ゲート1の入口の所にベビーカー預けると思うんですけども、まさに乳児の方を抱えてるお母さんが来るような所の脇に喫煙所があると。一切喫煙するなということではないんですけども、場所としてですね、お子様もどうしても通らざるを得ないゲートの入口の所、かつベビーカーを預けるような所に置いているのに、少し違和感を覚えました。スタジアムの施設の構造上難しいのかもしれませんが、その辺り変更するようなことができるのかということをお教えいただきたいと思っています。

松本：カルリーニョス選手のことについては、先ほど話した通り交渉中なんですけど、Jリーグの決まりで外国籍枠というところもあるので。リストは常に、カルリーニョス選手以外でも、全体的にはリストあげていますというところで、交渉次第でっていう動きになってくると思います。これは本当のこと言うと、お金が絡んだりだとかいうところがありますので、そう正直簡単には決まらないと思っていますが、それも含めて今交渉中です。

久保田：スタジアムの喫煙所の件は、近くに確かに、通路を挟んで向かい側にあるということは承知しておりますので、向きを変えるかなどというのはちょっと検討したいなと思います。あとはやはり分煙の上に、しかもできれば何か煙を吸うようなものを置くとかです

ね、そういうちょっと工夫は検討していきたいなと。場所を変えるということか、煙が行かないようにするような工夫は検討させていただきたいと思います。ご意見ありがとうございます。

司会：それでは他にございますでしょうか。

質問者 15：多分我々ファン・サポーターは、選手たちに何かを託して、いろいろやって応援してると思うんですよ。もちろん勝てば嬉しいですし、負ければ我々も悲しいですし、選手たちも悲しいのかなという。ただやっぱり、昨年の後半を見ると、前半は勝ちが多かったんで、喜んでサポーターの前へ来てくれたんですけども、やはり負けると何かいやいや来てるような雰囲気もすると。ちょっとその辺はやっぱり人間なんで、負けるとしょうがないと思うんですけども、我々も悲しい気持ちは悲しいですし、そこは選手に改めてもらいたいなという気がするのと、あとはそういう時にこそ中心、選手の中で取りまとめる人間というか、キーになるというか、そういう人間が大宮に要るのかなと。逆に言うと、そういう人間を作って全面的に売り出していけば、営業的にも売り出しやすいのかなという感じがします。なので、今年は本当にちゃんと、キーになる人間をちゃんと作っていただいて、その選手を中心にまとめていただきたいなというふうに思います。

あとはファン・サポーターの人も思ってると思うんですけども、選手たちは我々に何か望んでいることがあるのかな。多分サポーターのこういうミーティング、毎年やられますけれども、選手たちの思いというのが、なかなか我々には伝わってこないですし、どう思っているのかなっていう、聞ける機会もなかなか無いのかな。もちろんオレンジキューブに行けばあるのか分からないですけども、ちょっとその辺の、選手たちが我々に対して要望してることっていうところが、何かあれば教えていただければと思います。

松本：試合が終わった後、負けたときにサポーターの前にはいやいやでという訳ではなく、本当に悔しい、サポーターには申し訳ないっていう気持ちでいるのだと、僕は信じています。それで選手からは、やっぱりサポーターに来ていただいてありがとうございますっていう気持ちはありますので、僕はそういうふうに考えてもらいたくないなと、僕的には思うんですが。

質問者 15：多分、それはみんなそうだと思うんですけど、負ければ悔しいですし、ただ負けるんで、やっぱりしょうがないと思うんですけども、視線が下向いたままとかね、やっぱりそういうところってあると思うんですよ。我々も一生懸命選手たちが動いて、納得できる試合、もちろん勝たないと納得はできないと思いますけれども、そういうものってやっぱり伝わってると思うんですよね。それは仕方ないってやっぱり思うんです。でもやっぱりうつむいたまま、初めにゴール裏に来て、そそくさとバックのほうに行くと。選手たちは別に、我々サポーターの方に視線が行かないというのは、我々やっぱり見てると分かりますし、もちろんそういう選手たちだけじゃないですけども、やはり辛いのが分かりますけど、我々も辛いんで、何かそのところは。もちろんそれはね、だから選手たちも、それは先ほど言ったように、選手たちがどう思っているかっていうのを、我々に伝えてほ

しいんです。やっぱりそれは辛い、辛い時があるんだから、それを納得してほしいって言われたら、それはそうかも分からないですし。なので選手たちの思っているのが、やっぱり我々に伝わってくるころってなかなかないじゃないですか。フロントの方々と我々、今こういうタイミングでしゃべりますけれども、やっぱり選手たちの思っているのが、我々に伝わるころがもう少し増えれば、直接は難しいのか分からないですけれども、何だか納得できるころはあるのかなというふうに思います。そういう機会を持たせていただければなと思います。

松本：貴重なご意見ありがとうございます。選手の方には常に伝えて、そういうふうに話をさせてもらいます。ありがとうございます。

司会：はい。それでは当初の終了予定の8時となりましたので、お時間ご都合ある方はお帰りになられてもよろしいですが、それではあと10分になりますが、ご質問のある方、ございますでしょうか。

質問者16：突拍子もない話ですが、すみません。提案なのですが、アルディージャのファンクラブに愛称を付けたいと思うんですが、いかがでしょうか。カンペ読ませていただきます。例えばクラブハウスだったらオレンジキューブ、ショップだったらオレンジスクウェアという愛称があり、サポーターの間では略してオレキューとかオレスクと呼ばれて親しまれています。このように、ファンクラブにも愛称を付けた方が、より親近感や特別感が増すのではないのでしょうか。オレンジというクラブを象徴する単語が付いてもいいですし、付かなくても逆にいいと思います。ネーミングはオレンジキューブのときのようにサポーターから募集して、最終的には投票で決める方法がベストだと思っています。それからもう1つの提案としては、ファンクラブの方限定で買えるグッズなどがあつたらいいなと思います。例えばハンドタオル、マフラータオル、ジャンボタオルなど。それを持っていると、会員は特別感をもてるし、非会員がそれを見てうらやましいなと思ったら、作戦成功だと思っています。このような企画は大宮愛がより一層深まるきっかけになると思いますので、ぜひご検討をよろしくお願いします。以上です。

久保田：はい。ありがとうございます。素晴らしいご提案をいただきました。まずファンクラブの名称に関しては、以前クラブメンバーズという名前でやらせていただいていたんですが、そのときの問題としては、逆にそれがファンクラブだということが、初めて大宮を応援しようと思った人が入る時に分からないという問題があるように我々は思ったので、むしろ分かりやすくファンクラブというふうに一度してしまおうということで、ここ数年継続しています。ただおっしゃるように、いったん入っていただいた皆さまからすれば、ファンクラブという名前では味気ないんじゃないかというお気持ちもよく分かりますので、少し工夫して、どのような形がいいか考えていきたいと思っています。ですから、初めてこれから探して入ろうとしている人にも分かって、かつ入っていただいた方にも愛着を持っていただけるような名前がないかということで、検討したいと思っています。同じようにグッズであるとか、それからデジタル系のコンテンツも含めて、今後はもう少しファンクラブ限

定のものを増やしていこうと思っておりますので、今いただいた意見を参考にやっていきたいと思っておりますので、またご意見をいただければと思います。よろしくお願いいたします。

質問者 16：ぜひよろしくお願いいたします。ありがとうございます。

司会：はい。それでは時間も残り少なくなってきましたので、時間の関係で申し訳ないのですが、残りの質問を1つか2つとさせていただきたいと思っております。

質問者 17：こちらにいらっしゃる方は、恐らく皆さま長年サポーターをされていると思うんですけど、私は2012年の熊谷のゲームの招待券をいただきまして、そこからすっかり家の中がオレンジ色に染まってまして、実際に私着ているんですけども、車にもいろいろとステッカーをはらせていただいています。これは質問というよりも僕個人の思いなんですけれども、当然今までも同じだったように、勝てば当然うれしいです。ルンルン気分で帰ります。でも負ければ当然帰り道は悔しいです。電車の中でもみんななどよ〜んとしたような気持ちになると思っております。ただ、いろいろとご招待券を出したりですとか、そういった方には何かきっかけを与えて、試合を見てくださるということ、ぜひ今後とも続けていただいて、先ほど入場料収入が10%っていうふうになってたんですけども、あれが限界だと、そういうことは、そういう弱気なことを言わずに、これを浦和さんが30%ですか、あのぐらいまでなるように、お願いしたいなというふうに思います。

久保田：ありがとうございます。弱気なつもりはなかったのですが、一杯一杯までお客様に入ってもらえるよう頑張っていきたいと思っております。招待券は、やはりいろいろご意見はあるのですが、やはりサッカーは、見ないと・体験しないと価値が分からないものだと思っておりますので、一定の招待券は以前からお話ししてる通り必要だと思っております。ただ、いわゆるばら撒きはやらないということでやっておりますし、ここに来ていただいているような、想いを持ってもらっている方からご招待いただくというのが一番いい形だと私は思っておりますので、この3年ぐらい続けているんですけど、もう少し続けさせていただきたくて、89%が限界じゃなく、99%、100%になれるように、いろいろ工夫してまいります。よろしくお願いいたします。

質問者 17：ありがとうございました。

司会：それでは最後の質問になるかと思っております。残り時間が少なくなってきましたので、質問のほう簡潔にお願いします。

質問者 18：最後ですが締まるかどうか分かりませんが、すごく気になってたんですけど、ノヴァコヴィッチ選手のことについて聞きたいんですけど、歴代大宮で一番点取ってきた選手で、青木選手には契約延長オファーしたということですが、ノヴァコヴィッチ選手には契約延長オファーをしなかったのかということを知りたいです。

鈴木(徳)：個別の話というよりも、僕の考えですけれども、移籍というのは全て予算とタイミングの問題になってくると思うんです。申し訳ないですが、オファーしたかしないかというのも、これは相手もあることですので、控えさせていただきます。今言いましたように、どこのチームでもそうだと思いますが、シーズンが終わってこういう契約更改の時期になったときに、その中で自分たちの持っている予算・必要なポジション・必要な年齢層・それから相手の状況、いろんなことが重なり合ったときにどうするかっていうことを考えて進めさせていただいているという状況をご理解いただいて、そこまでしかちょっと答えづらいというのが、正直なところですよ。申し訳ございません。

司会：はい。質疑応答は以上とさせていただきます。それでは以上をもちまして、「2014大宮アルディージャサポーターズミーティング」を終了とさせていただきます。皆さま、本日はお忙しい中ご来場いただきまして誠にありがとうございました。今シーズンも大宮アルディージャへのご声援を、どうぞよろしくお願いいたします。